

今忍耐できない子どもが増えています。3歳までに受けるべきものを受けられなかった子どもは自らで得なければ与えられないと思うので忍耐ができないのです。私たちは人には我慢させますが自分たちが我慢することは嫌いです。私たちが外に出て行けば問題にぶつかりますが、そこで必要なのがこの「忍耐」なのです。最近の子は叱られるとキレル子が増えているのは忍耐ができなくなっている事を象徴しているのではないのでしょうか。「しかり言葉は励まし言葉」・・・叱られるのはあなたが本来すべきことではないことをしているからであり、それを叱られることで本当のあなたの姿が出るのです。これが私たちにとって最大の「励まし」なのです。訓練を与えられるのはあなたの本来の姿が出されるためであり、それを出すために忍耐が与えられます。聖書はこのようにして忍耐と励ましを与えられています。忍耐が生じた時にどのように乗り越えたらよいのでしょうか。忍耐が生じる時、私たちは人の姿が目がいります。人と自分を比較します。これは失敗です。私たちはそれぞれ光り輝く原石である事をしなくてはなりません。金は焼かれないと精錬されないし、ダイヤモンドも削られて本来の輝きに至ります。神様もあなたを原石として見ていて輝けると知っています。だから今日神様はあなたに、忍耐と励ましをもってがんばりなさいと言っているのです。「既にダイヤモンドである」ことを忘れて「ダイヤモンドになろう」とするから何をしても疲れ、忍耐できなくなってしまうのです。自分が輝くために忍耐をどう乗り越えるかを考えなくてははいけません。(ヨブ28：12～28) ヨブ自身は神にも正しい人と認められ、自らを保つことはできましたが、彼に欠けていた忍耐は、わが子を信じて待つということでした。悪魔はここに目をつけ、ヨブの命以外(家畜、妻、子といった財産全て)を奪いました。この箇所ではヨブは「知恵はどんなにお金を出しても買えない」ということを言っています。ダイヤモンドも、しめめのうも磨かなくてはきれいではありません。そしてそれは人の知識によって磨かれました。どれも人の知識で磨き上げているのですが、最初は神の知恵でした。この知恵が知識となり、この知識に基づいてしか人は物事を判断しないので忍耐できなくなっているのです。ヨブのところに来た3人が言った言葉も知恵ではなく、これまでの経験観測に基づくものでした。ここで起きた出来事は、ヨブが、経験観測によって判断するのではなくいつも神の知恵によって問題を乗り越えなくてはならない、自らを知恵あるものと思わず絶えず神様からの知恵によって生きなければならぬということを学ぶ訓練だったのです。それと同時に知恵がないと失うことの大きさを教えています。神の知恵によって子どもを教えるならば、心配をする必要はありませんでしたが、ヨブ自身の知識によって教えていたためにその知識が子どもたちを悪くするかもしれないという不安を持たなくてははいけなかったのです。神様はヨブに知恵を教えるときに励ましをセットで教えています。私たちが忍耐を失っているのはすべて知識によって判断しているからです。知識はあなたの判断を鈍らせ、あなたをくだびれさせ希望を失わせるのです。どんなにあなたの知識に基づく結果が悪かったとしても(目の前にある現状があなたの理想でなくても)、その時主を恐れるのであればあなたは知恵を持って神に出るべきなのです。あなたの前に知識的に否定的な状況が起きたのであれば、その状況を知恵によって打破できなくてははいけません。誰もできなかったことをやってのける。これが知恵です。神様は全知全能です。「なんで私だけ・・・」などという前に聞けばよいのです。(伝1：15～18) 最初の知恵は善悪の木の実です。ここで人は知らなくてもよい知識をもってしまったのです。知らなくてもいいことを知ったからソロモンは虚しくなったと言っていたのです。そしてその後一度神様を捨て、快楽にふけてみたがそれはもっと虚しかったと言っているのです。「神のなさることはすべて時にかなって美しい・・・」(伝3：11～) 知恵を持って神を越えることはできない、地上で生きるには知恵をいくらかもっていいことはない、ソロモンは神様から知恵を与えられたので、知恵を悟りその都度聞くことをやめてしまいました。この地上の王の知恵者になってしまいました。しかし私たちはこれをしてはいけません。知恵はいつも新しい神の知恵をもらうべきであって悟るものではありません。ソロモンが最終的に行き着いたのは知恵は自らが持つものではないということです。ヨブが至った境地もソロモンが至った境地も同じです。二人とも神を恐れる(神に聞かなくては、人間が知恵を持つてはいけぬ)ところに至ったのです。人は初めから終わりまで物事をわかまえず知れないからこそ知恵は持つだけでなく求め続けなければならないのです。一度ではなく追い求め続けなくてははいけません。あなたは今人と接するときどのように接していますか。「この人はこういう人だから」とあなたの知識でつきあえば、その人とのつきあいは知識でのつきあいでしかありません。あなたの知識で伝えるのであればその人は救われません。なぜならあなたはその人を形作ってもいない一生をみることもできないし、自らのことも見極められないのに決め付けるからです。お互いに持っているものを神のために用いれば、その人のすばらしい能力であり神の知恵になります。教会に集まる人たちはそれぞれ神を信じ愛する気持ちは一緒ですが 全ての人がそれぞれ神の知恵に基づいて、持つのではなくその都度与えられて生きるべきです。みんなそれぞれ違う輝きがありそれぞれ違う道のりを歩むのです。だからあなたの知識によって「私も通ったのだからあなたも通りなさい」ではなく、その人が今日どうしなくてははいけぬかを聞くべきです。知恵によって共に歩むために、**①知恵は知識によって見出せない**。知恵を持った瞬間新しい知恵ではなく知識になってしまいます。これがソロモンの至った境地です。自分はどの王よりも知恵を持ったが神から離れてしまっては知識にすぎず楽しみも喜びもないということです。あなたは知識によって判断していませんか。知識でやったのはヨブを責めた3人です。だから神はこの3人を怒りましたが、ヨブは「自分も彼らと変わらない」という神の知恵を得て彼らを赦しました。これがヨブの実践した神の知恵でした。ヨブが赦したので3人も赦されましたが、何もありませんでした。知恵によってやったヨブはこの地で2倍得ました。私たちも同じです。知識だけでも神を信じていれば救われます。しかし何もありません。知恵を得ると2倍得るのです。**②知恵は人を立たせる**。(Iテサ5：10、11) 主と共に生きるのは心の王座を自分にしないためです。知恵ある人の言葉は人を立たせます。そして結果やる気をおこさせます。「主の懲らしめを受けて心をかたくなにしてはならない」知恵によって受けとめればあなたは立つことができます。あなたが知恵者であるという証拠としてあなたの言動で立ち上がることを実践してください。はげましあうことが大切です。人に語るとき知恵ある言葉や励ましになっているか確認してください。**③忍耐で励ましに徹する**。(ロマ15：1～5)「忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。」(ローマ15：4)「昔書かれたものは、すべて私たちに教えるために書かれたのです。それは、聖書の与える忍耐と励ましによって、希望を持たせるためなのです。どうか、忍耐と励ましの神が、あなたがたを、キリスト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを持つようにしてくださいますように。」この2箇所は同じ事を伝えています。「練られた品性」と「励まし」は原語のギリシャ語を見ても関連性があります。品性とは神の知恵です。つまり「忍耐と励まし」は知恵によって生まれると言う事がこの2つの御言葉から理解することができます。そして「同じ思い」なのは忍耐と励ましです。知恵はあなたが持つためではなく誰かの励ましのために与えられるのです。神様はいつも励ましのために語っています。あなたは人と接するとき知恵で接していますか。知恵であれば必ず励ましであり立たせます。あなたもあなたの周りの人もたっていますか。奮起があるなら知恵ですが、あなたの心に知識があると裁きになり人を立たせません。そしてあなたも裁かれます。知識と知恵はこれほど違います。人の一生には神が計画した時があります。そして人はその時をうかがい知る事はできません。それを私たちが決め付けるのは大変な問題であり、愚かなことです。日々私たちは新しく知恵を聞くべきです。神がこの地を治めないのは私たちが知識に立つからです。神は私たちの舌に言葉を与えます。ですからあなた自身もあなたの判断で言葉を語るのではなく神の知恵で語らなくてははいけません。そうすれば全ての人とのかかわりが変わってきます。「あなたは何」と言われたら「イエス・キリストです」と言えばよいのです。もはや私たちのうちには自分でなくイエスキリストがいるからです。こうなればパウロが語ったキリストの身丈にまで及び競争の土台に立ったということです。『私は、すでに得たのではなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。』(ピリピ3：12)パウロは知恵は求め続けるものだと思ったから「すでに得たものでもなく、完全ではない」と言いました。私たちもこうあるべきです。特に近い人に対して、あなたの知識で決め付けしないで下さい。あなたも変わったのです。変わると信じてやれば変わります。あなたが励ます言葉を語るとあなたが変わります。今日からあなたの知識でなく神の知恵を語っていきましょう。